

学校図書館支援センター通信 162号

令和3年度 市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）

令和3年度文部科学省委託事業「学校図書館の活性化に向けた調査研究」について

2月10日（木）、今年度の文部科学省委託事業に関わる企画運営委員会を開催しました。推進協力校である市川市立曾谷小学校の1年間の取組と今年度の調査研究について振り返り及び来年度に向けた課題について協議しました。今年度も事業委員長として帝京大学 教授 鎌田 和宏先生、市川市学校図書館アドバイザー 小林 路子先生にご参加いただき、ご講評いただきました。

曾谷小学校の実践報告より

曾谷小学校では、国語科を中心に学校図書館の機能を活かした授業づくりの推進を行いました。国語科の学習では並行読書を取り入れ、児童が読書できる環境を整えていました。また、家庭学習に読書を取り入れ、長期休みに読み聞かせの宿題を出した学年もあります。このように意図的・計画的に読書ができる環境を整えたことで、家庭でも読書をする姿が見られるようになったそうです。こうした読書環境を整えるためには、学校司書の役割が重要です。曾谷小の先生方は、学校司書との連携を大切に進めていました。

曾谷小学校では、ICTの活用についても積極的に行っており、ICTを活用して最新の情報を調べたり、表現活動の場面でICTを活用したりするなど、従来の学校図書館機能に加えて、ICT活用も取り入れていました。

帝京大学 教授 鎌田 和弘先生より

曾谷小学校が作った学校図書館活用のモデルをどれだけ市内へ広げることができるかが重要です。そして、あらゆる教科で活用できるように、各学校で実践を推進してほしいと思います。

「読書」の意味・意義は、文学作品を読み「楽しむための読書」に加えて、現代では「情報を得るための読書」「知識を得るための読書」を重ね、読書の幅を広げることで、「思考・思想を創り、生き方を育てる読書」へと発展しています。「思考・思想を創る読書」は、AIにはできないことであり人間の強みです。しかし、「思考・思想を創る読書」である調べ学習に難しさを感じている子もいます。「難しいけれど、やりがいがあるな」と子供たちに思わせるためには、指導者側の開発が大切になってきます。

市川市学校図書館アドバイザー 小林 路子先生より

司書教諭、学校司書だけでなく、先生方もきちんと取り組まれています。読書が苦手な子がいるからこそ授業の中で読ませていくことが大切です。授業の中で読むことで、本好きの子になる場合もあり、様々なジャンルの本を読むことで考え方や思考力が高まっていきます。曾谷小学校では、低学年から書く活動を位置づけ、「話し合う⇒伝え合う⇒まとめる」のサイクルができているので、国語科でつきたい力が全て育まれるようになっていきます。

図書館の窓から1 ～ひろげよう！図書館の輪・リレー執筆～

妙典中学校では、秋に全校を挙げていじめ防止啓発（オレンジリボン）キャンペーンを行っています。

図書委員会では、「お互いを理解することの大切さ」をテーマにした本の展示を行いました。たくさんの生徒に関心を持ってもらえるよう、手作りのPOPを描いたり、看板を作ったりするなど、展示コーナーを工夫しました。展示された本を借りていく人や絵本などを図書館で読む人も多く見られました。本を通して、考えを深めたり、新たな気付きにつながったりすればよいと感じました。今後も、生徒の興味や関心の幅が広がるような図書の展示をしていきたいと思っています。

【市川市立妙典中学校 学校司書 川上 節子】



研究紀要 「生きる力・夢や希望を育む学校図書館12」のご案内

推進協力校（曾谷小学校）の協力のもとに行った調査研究の今年度の成果を、『生きる力・夢や希望を育む学校図書館12』の冊子にまとめ、各学校へ配付します。曾谷小学校、教職経験4年目教員の実践事例も掲載していますので、今後の学校図書館活用の参考にしてください。

第七中学校の取組を紹介します！

『読書郵便～紹介した本と一緒に～』『学校司書、司書教諭、先生方の連携』

2月8日（火）に行われる予定でした学校司書研修会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点により、資料配付となりました。研修会では、8月に開催された関東地区学校図書館研究大会の報告も予定されていましたが、今回は、研究大会で発表された内容をもとに第七中学校で行った取組を2つ紹介します。

1つ目は、「読書郵便」です。小学校を中心に多くの学校で行われている「読書郵便」ですが、おすすめの本についてははがきで伝えるだけではなく、第七中学校では本も一緒に届ける読書郵便に挑戦しました。今回は、白樺学級の取組として行い、1・3年生が2年生に、2年生は読書郵便をもらった1・3年生に読書郵便を送りました。おすすめの本を封筒の中に入れて、はがきを封筒に貼りました。本と一緒に渡すことができたので、はがきを読んですぐに封筒から本を出して、本を読むことができました。



読書郵便が書いたら切手を貼ります。

2つ目は、「学校司書、司書教諭、先生方との連携」です。第七中学校では、毎年、隣接している保育園と図書委員会の生徒が交流をしています。今年は、ICT支援員の方にも協力していただきながら、図書委員会担当の先生と読み聞かせの動画を撮影しました。撮影した動画はDVDに編集をして、保育園に届けました。後日、テレビに映して園児に見てもらいました。また、図書購入の際には、図書館部会の先生方に関わってもらいました。先生方も楽しみながら本を選書し、先生方の個性が現れた選書となったそうです。学校司書、司書教諭だけでなく、多くの先生方に学校図書館運営に携わっていただくことで、学校図書館のさらなる充実につながっています。



図書館の窓から2 ～ひろげよう！図書館の輪・リレー執筆～

鶴指小では6月と11月を読書月間として、図書委員さんと色々な企画に取り組みました。11月には図書館の廊下に大きな木を学年ごとに作成して張り出し、全校児童が図書の時間に「おすすめの本」カードを作って葉っぱのように飾り付けました。廊下は「先生のおすすめ本」カードと葉っぱでいっぱいになりました。子供たちは「この本借りたい、読みたいな！」と興味を持って見入っていました。このほか、1年を通して給食の時に読み聞かせする「おはなし給食」も行っています。

このような活動を通して、子供達が本を身近に感じられるような図書館づくりをしていきたいと思っています。

【市川市立鶴指小学校 学校司書 穴井 美紀】

11月『たくさん本を読んでビンゴ！』廊下に貼られているおすすめカードから、読みたい本を探して読んでビンゴを行う



市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）

〒272-0015 千葉県市川市鬼高1-1-4

TEL 047-320-3335 FAX 047-320-3352

